



宗瑞 四十卷集

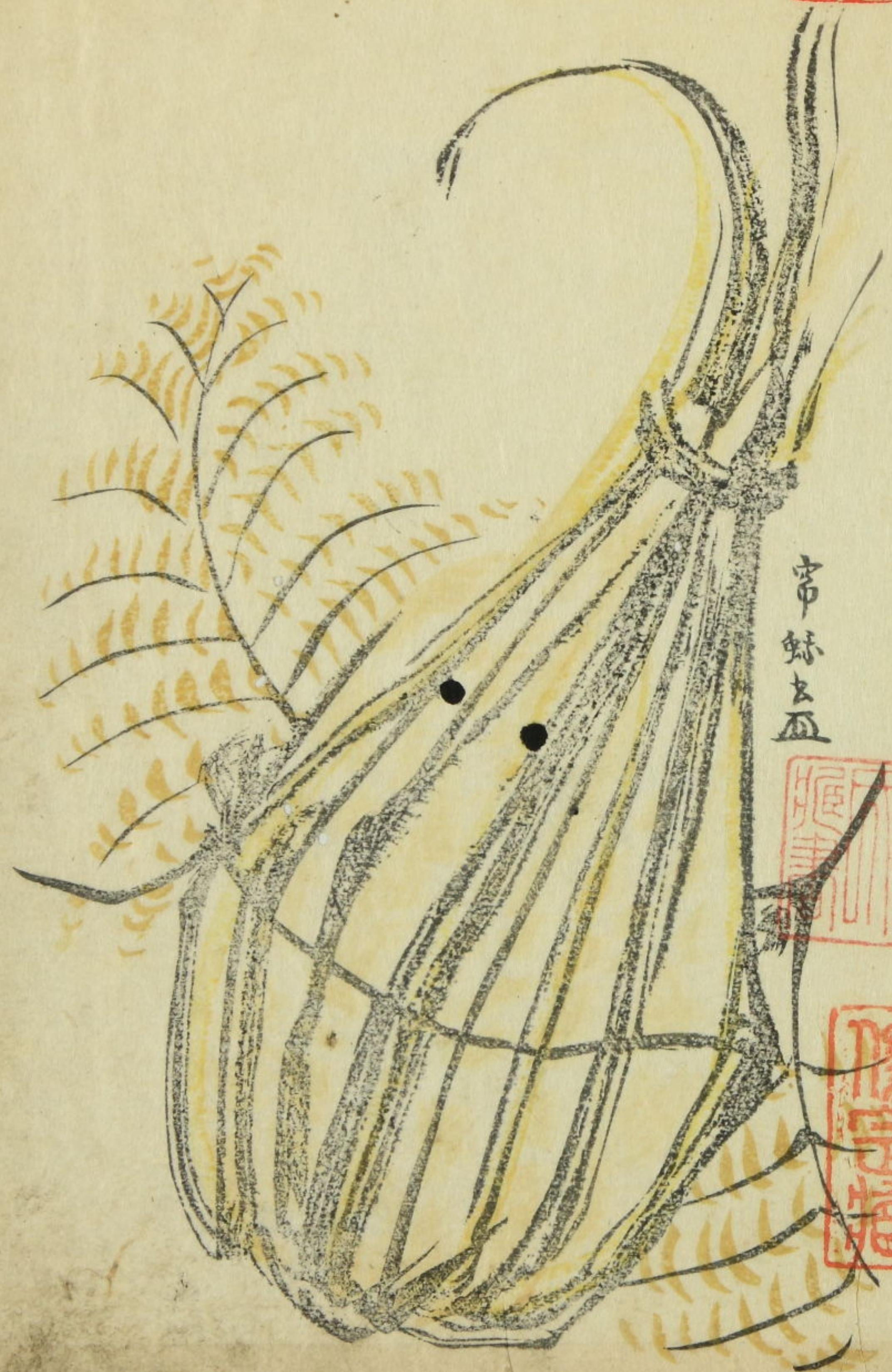
中村俊定文庫

文庫 18

953



宗瑞四十笈集



宗瑞五



...の...  
...の...  
...の...  
...の...  
...の...  
...の...  
...の...  
...の...  
...の...  
...の...

...の... 宗瑞  
...の... 雪井  
...の... 宗宇  
...の... 東園  
...の... 宋門  
...の... 一長  
...の... 老十  
...の... 飛凡  
...の... 呉雪

橋分治乃 櫻山宮中  
 大神の共去々此のよけり相  
 身法かきくはくし  
 うはれきふゆふの宮好の月結  
 折笠をくく系巻乃兵中  
 筆山のあしりい結もはく  
 道あもわたりし無海のりく  
 乙多の産子遠子たははり  
 縣のくく毛國のりく  
 李門

まろくく雪の自地は網り  
 又りくくぬきふの経節  
 梓弓法は法ふきくはく  
 鶴鶴はくくゆきり  
 うけや河系のは乃善原  
 口候ふふはく自女なる  
 吾深はくく一色の音智織  
 候乃利是と御名点  
 子子振りく層の御明  
 淮水

柳雨

曲臂

山妻

麻車

旭峯

兎帆

龜汀

宗二

李門

位之

呂仙

卷一

秋河

大福

木松

三根

子法

淮水

藤あは梅乃海つし怖る

山路

月あし穂々小動使と愛と

竺蘭

二人あうらと号しね影為差

竺丹

淋しは国み秋の山つ所而

瑞雨

りふも解ぐあふ結あ集

菡卿

穂ちいつ知りあしつちう海に

三巴

汲うし瓢を海にうきく

竹虹

こりりりあはたをの森みえ

梅年

あはれもあしつちう海に

桃華

与ららの夏草

系九

あはれもあしつちう海に

老くつちう海に乃まの取

系九

あはれもあしつちう海に

系九

あはれもあしつちう海に

系九

あはれもあしつちう海に

系九

あはれもあしつちう海に

系九

あはれもあしつちう海に

系九

あはれもあしつちう海に

系九

ふねの福系子林の妙森光  
酒市

子の月 舞のくまの屋宇の香  
逸雲  
凍解 さらさら 雪の舞

まふや花のの影のさくら  
雪才  
舞のさくら 月の舞 取  
酒

能く月をぬきさく花の雲  
柳門  
雲の花 雨の舞 取  
酒

か別とさくら 柳のさくら  
林人  
背のふ 舞のさくら 雲  
取

舞の先のを舞のさくら 妙花の  
京宇  
信 一 信のれ 花のさくら  
取

雲のさくら 雲のさくら 雲のさくら  
梅年  
雲のさくら 雲のさくら 雲のさくら  
取

雲のさくら 雲のさくら 雲のさくら  
山蘭  
雲のさくら 雲のさくら 雲のさくら  
取

雲のさくら 雲のさくら 雲のさくら  
京二

ちきりしるしるの能

神丸一袋がくし生玉乃月

ちきりしるしるの能

たきぬしるしるの能

たきぬしるしるの能

たきぬしるしるの能

たきぬしるしるの能

東武會頭

湖上史

蓮葉也 枯葉也 乃 東園

二月菴

胎子産立しるしるの能

凡太師

参り老の儀若水からむりう那 先十

神老習字 句 向 吹 玉 来 之 御 命

吹玉来之御命 星瑞

吹玉来之御命 大瑞

吹玉来之御命 涂行

吹玉来之御命 外翠

吹玉来之御命 風来

吹玉来之御命 宗及

吹玉来之御命 三巴

吹玉来之御命 本仙

吹玉来之御命 高雨

吹玉来之御命 南研

吹玉来之御命 美理

吹玉来之御命 可流

吹玉来之御命 梓曲

吹玉来之御命 藤波

吹玉来之御命 一枝

吹玉来之御命 一枝

吹玉来之御命 一枝



未<sup>東</sup>海<sup>松</sup>の<sup>改</sup>海<sup>改</sup>元<sup>改</sup>の<sup>改</sup>蟹<sup>改</sup> 山

神<sup>上</sup>元<sup>上</sup>色<sup>上</sup>に<sup>上</sup>云<sup>上</sup>の<sup>上</sup>相<sup>上</sup>色<sup>上</sup>御<sup>上</sup>香<sup>上</sup>竹<sup>上</sup> 礎

弓<sup>上</sup>洪<sup>上</sup>の<sup>上</sup>纏<sup>上</sup>を<sup>上</sup>糸<sup>上</sup>に<sup>上</sup>し<sup>上</sup>傍<sup>上</sup>海<sup>上</sup>元<sup>上</sup> 礎

先<sup>上</sup>皇<sup>上</sup>御<sup>上</sup>魂<sup>上</sup>の<sup>上</sup>音<sup>上</sup> 音

古<sup>上</sup>の<sup>上</sup>神<sup>上</sup>の<sup>上</sup>音<sup>上</sup> 妙

春<sup>上</sup>の<sup>上</sup>音<sup>上</sup> 竹

神<sup>上</sup>元<sup>上</sup>也<sup>上</sup>元<sup>上</sup>の<sup>上</sup>音<sup>上</sup> 竹

海<sup>上</sup>の<sup>上</sup>音<sup>上</sup> 竹

元<sup>上</sup>神<sup>上</sup>の<sup>上</sup>音<sup>上</sup> 竹

東松改

山

礎

礎

音

妙

竹

竹

竹

竹

神<sup>上</sup>元<sup>上</sup>の<sup>上</sup>音<sup>上</sup> 下

○

元<sup>上</sup>神<sup>上</sup>の<sup>上</sup>音<sup>上</sup> 上

人<sup>上</sup>の<sup>上</sup>音<sup>上</sup> 上

古<sup>上</sup>の<sup>上</sup>音<sup>上</sup> 上

之<sup>上</sup>の<sup>上</sup>音<sup>上</sup> 上

下

秋

友

長

池

車

甫

曲

枝

川

因細之〜栗リ〜  
改ふと葉みおる〜  
道廣く杖川知小門

何江  
分流  
西陀

しり〜佳ま〜  
花又入んね若〜  
句由きなるの〜

東支叙  
李旋  
梅色  
仙芝  
榊雨

言砂の遠入口也  
神考〜杖川表のかさり外

大敷  
曾水

中細好正福葉とさるの神乃那  
〜川〜  
〜川〜

東柳  
岷長

〜川〜

〜川〜

兀雨

〜川〜  
〜川〜  
遠〜  
〜川〜

仙胤  
凡也  
文真  
兔四

年儘のまにたらしむ代々のま

古道

名月より清く系多る神のま

魚汕

名物の門のみとくや中納乃春

斗五

母のゆか丸を敵く神のけ

東原

神杖のまき御之まをの飯

蒲畑

床のまきとまきとく福香州

香雅

名水より龍く川くちや神杖

花菖

十かえりのまきとくまきとく

道邊

か別のまきとくしりまきとく

鬼頭

まきのまきとくまきとく

かま

まきのまきとく同まきとく

子原

月香ふまきとくまきとく

鬼丸

七人のまきとくまきとく

呉雪

まきのまきとくまきとく

子得

梅咲くまきとくまきとく

千湖

まきのまきとくまきとく

水原

中代路へま雲の海へまりり  
野老の聲も海多き教  
八中  
公名

老ねくまきり人ふやうし  
旭堂

の細く先之上の船へ神居  
鬼帆

ゆいしよたの後のまきね  
亀江

老神のくつ日のけま  
木路

神居を先蓮葉の門か  
波下

ふ凡十をまのまへ神り  
苟志

歳暮と奥浪雜

水府會誌

野を養ふも聲は判らぬし  
鬼四

かりり海老の山島  
三

聖もまの音よひは教  
古道

りてまのねくまきり  
奥仙

ゆきまのまきり  
凡公

ひまのまきり  
三

乙子のまきりにまきり  
又奥

うけまのまきり  
三

名もまやも屋くうの屋に宿る山 斗取  
この尾に宿るもまやも宿る山 立  
名もまやも屋のま宿の二宿連 永便  
名も凡望と宿るもまのま 立  
くけとま宿るもまのま 宿明  
名も凡望と宿るもまのまの宿 善雅  
まのまのまのまのまのまのま 立  
名もまのまのまのまのまのま 花菫  
宿の凡中ま宿るもまのまのま 仙胤

海舟のまのまのまのまのまのま 立

海舟のまのまのまのまのまのま 道定  
うまのまのまのまのまのまのま 善雅  
名もまのまのまのまのまのま 善雅  
名もまのまのまのまのまのま 立  
名もまのまのまのまのまのま 立  
名もまのまのまのまのまのま 立  
名もまのまのまのまのまのま 立  
名もまのまのまのまのまのま 立  
名もまのまのまのまのまのま 立

ろりやうさしぬやゆか大舞の  
立

きんさしにゆきと光る巾の蓋か  
去理

白紙かへしきき海に海か舟  
立

あひさしきしききききききききき  
呂福

探物かあふあききききききききき  
神曲

解くくあききききききききききき  
陽雨

けいさのききききききききききき  
立

あふあふあふあふあふあふあふあふ  
本仙

あふあふあふあふあふあふあふあふ  
立

つらつらつらつらつらつらつらつらつら  
三巴

つらつらつらつらつらつらつらつらつら  
立

つらつらつらつらつらつらつらつらつら  
都破

つらつらつらつらつらつらつらつらつら  
善江

つらつらつらつらつらつらつらつらつら  
津水

つらつらつらつらつらつらつらつらつら  
立

つらつらつらつらつらつらつらつらつら  
立

つらつらつらつらつらつらつらつらつら  
立

つらつらつらつらつらつらつらつらつら  
立

鳥宿一と山を梅乃候日、那  
 ういふことなきことなきの事  
 九と一と山をこころに思ふ事  
 力の心なき事梅の月取小  
 善むことなき事梅乃甲一と  
 けりこと梅の星は梅の事  
 公川の事なき事梅乃日  
 けりこと梅の星は梅の事  
 又と一と梅の事なきこと一と梅  
山  
路  
三  
三  
三  
一  
三  
三  
三  
三

鳥代なき事梅乃候日、那  
 ういふことなきことなきの事  
 九と一と山をこころに思ふ事  
 力の心なき事梅の月取小  
 善むことなき事梅乃甲一と  
 けりこと梅の星は梅の事  
 公川の事なき事梅乃日  
 けりこと梅の星は梅の事  
 又と一と梅の事なきこと一と梅  
一  
下  
三  
友  
三  
友  
三  
友  
三  
友  
三  
友

柳雨のそりしめりりり  
 しけんのさあさあさあさあさあさあさあ  
 抱きかかるといふさあさあ  
 共みあふさあさあ  
 うけをいあさあさあさあさあ  
 庭をいあさあさあさあさあ  
 庭をいあさあさあさあさあ  
 庭をいあさあさあさあさあ  
 庭をいあさあさあさあさあ

柳雨  
 五  
 五  
 五  
 五  
 五  
 五  
 五  
 五

柳雨のそりしめりりり  
 しけんのさあさあさあさあさあさあさあ  
 抱きかかるといふさあさあ  
 共みあふさあさあ  
 うけをいあさあさあさあさあ  
 庭をいあさあさあさあさあ  
 庭をいあさあさあさあさあ  
 庭をいあさあさあさあさあ  
 庭をいあさあさあさあさあ

柳枝  
 五  
 五  
 五  
 五  
 五  
 五  
 五



一の高良人の形はまゝのまゝ  
 長神より高解りたるか  
 端より高解りたるか  
 梅のつぼみたるか  
 月より高解りたるか  
 一の高良人の形はまゝのまゝ  
 長神より高解りたるか  
 端より高解りたるか  
 梅のつぼみたるか  
 月より高解りたるか

五

五

水

五

梅

五

仙

五

鬼

五

若葉は心持おぼろしき  
 流るる水は心持おぼろしき  
 〇

若葉は心持おぼろしき

元

雨

〇

八

巾

五

加

筆

五

六

一の高良人の形はまゝのまゝ  
 長神より高解りたるか  
 端より高解りたるか  
 梅のつぼみたるか  
 月より高解りたるか  
 一の高良人の形はまゝのまゝ  
 長神より高解りたるか  
 端より高解りたるか  
 梅のつぼみたるか  
 月より高解りたるか

雨の日は海山と海——雉子の巻 巻行  
 之休湯の洞子と名りたて——志 立  
 雲霧の中へ月の光り輝き白 白  
 初ねの社を本進し山乃奥 立  
 鐘の音の遠くけらるるの夜 夜  
 仲ふりの舞のこころの柗の 兎八  
 来喜の如新のこころの音 立  
 こころのこころのこころの柗の 芍玉  
 来喜の如新のこころの音 立

てしらぬの月おろし大晦日 女不撰  
 柗の音のこころの柗の音 呉雪  
 舞の音のこころの柗の音 立  
 来喜の如新のこころの音 雷我  
 来喜の如新のこころの音 立  
 来喜の如新のこころの音 大瑞  
 来喜の如新のこころの音 立  
 来喜の如新のこころの音 君路  
 来喜の如新のこころの音 立  
 来喜の如新のこころの音 東梅

神老の賀章

下谷山雲金院

考ねハ名の〜也門乃若〜 鬼乙

〜乃老乃若〜 鬼勇

手ね〜乃若〜 鬼仙

蓬萊乃若〜 一路

毛乃若〜 盤志

乃若〜 盤志

神老のち〜 盤志

云々乃若海老乃乃 盤志

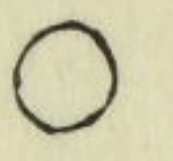
七

神老の醫問〜 索石

床の向〜 斗ト

今令の修〜 文十

乃若〜 後橋



神老〜 一志

乃若〜 張而

乃若〜 圓菴

蓬萊乃若〜 松樹

上谷山

岩山

六

高きや悪きふゆみゆり  
非人之考く机格乃是  
之りや考く機格乃是  
〇

舟  
帆  
會  
改

門わや月より海へ  
舟よりやまののみか  
舟の船乃機也舟の機  
舟船の機を機也舟  
之り也 潮と湫との淵  
因水

海原子雲の舟  
維久乃機海舟  
同  
統  
塵  
油  
未  
雲  
や  
志

好和  
聖蘭  
和凡  
里明  
松仙  
柳翠  
其友  
山松  
中泉

麻のしねの好くはるの葉 朱英

天のまじはりのしねの葉 伯成

つねのしねの葉 金志

たねのしねの葉 北海房

あまのしねの葉 天 陸羽

たねのしねの葉 魚用

あまのしねの葉 友羽

あまのしねの葉 雷新

まじはりの好くはるの葉 鬼江

あまのしねの好くはるの葉 巴江

小ねのしねの好くはるの葉 沙志

たねのしねの好くはるの葉 岩之

あまのしねの好くはるの葉 山志

あまのしねの好くはるの葉 三礼

あまのしねの好くはるの葉 浙江

あまのしねの好くはるの葉 英市

玉乃歌

松玉伝全集

うき世の音母はなり物うけ 可雲  
あはれはみおぼえなるのみ能 小念

とらぬ

あはれはみおぼえなるのみ能 小念  
あはれはみおぼえなるのみ能 小念

○

にんげんはまのこゝろのこゝろ 逸美

あはれはみおぼえなるのみ能 小念

あはれはみおぼえなるのみ能 小念

あはれはみおぼえなるのみ能 小念

あはれはみおぼえなるのみ能 小念

あはれはみおぼえなるのみ能 小念

あはれはみおぼえなるのみ能 小念

あはれはみおぼえなるのみ能 小念

あはれはみおぼえなるのみ能 小念

手紙をよみしつゝ風を西の海  
 一名とし書しつゝしを細く書  
 山余傍  
 可源  
 三  
 際もも遠くあかき一里  
 可  
 三  
 吟つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 解つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 橙の端つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 一里の端つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 一里の端つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三

手紙をよみしつゝ風を西の海  
 一名とし書しつゝしを細く書  
 山余傍  
 可源  
 三  
 際もも遠くあかき一里  
 可  
 三  
 吟つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 解つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 橙の端つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 一里の端つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 一里の端つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三

睿興

手紙をよみしつゝ風を西の海  
 一名とし書しつゝしを細く書  
 山余傍  
 可源  
 三  
 際もも遠くあかき一里  
 可  
 三  
 吟つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 解つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 橙の端つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 一里の端つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三  
 一里の端つゝもあかき一里の端つゝ  
 可  
 三

梅うまわ〜二色三喜鳥うま 可雲	美面小燈〜紫〜梅 可唄	淡雪乃清乃わ〜月〜露 可琴	糸口の〜海〜柳 可次	夢と美鳥梅〜西〜梅乃花 可胎	ねんのおふ川〜花〜中 可旧	ともやまのし梅咲坪のりあこ 可源
--------------------	----------------	------------------	---------------	-------------------	------------------	---------------------

梅うまわ〜二色三喜鳥うま 可雲	美面小燈〜紫〜梅 可唄	淡雪乃清乃わ〜月〜露 可琴	糸口の〜海〜柳 可次	夢と美鳥梅〜西〜梅乃花 可胎	ねんのおふ川〜花〜中 可旧	ともやまのし梅咲坪のりあこ 可源
--------------------	----------------	------------------	---------------	-------------------	------------------	---------------------



くしひあはれぬまにをきこは 三

荒のたれを叫 誰にたむをち 好而

つは海危の垂ふ舞うるの 三

柳号也 松子もほく 九十燈 聖南

ふも子 胡蝶のまへに 三

傘の下に 面たりし 雲の雪 和化

終るくし 雲をまや ちるちり 三

ふとたんの 終るる 霧は 中 里明

是もふ 空をさ 理くる 三

考みあし けり流り 三 松仙

一色の 芝幕 けり 池原の 三

あ風の 吹かふ 力み けり 三 柳翠

とく けり 芝譜 けり 三 三

星路の 舟 秘心 けり 三 共友

く けり けり 三 三



小山の ぬき けり 三 三 鬼乙

凡 三 けり けり 三 三

青柳の如く紅と咲ふりり

鬼勇

市の中より暮るる行々葉布賣

立

苔々あめく唯ふの年福

羞雅

今一里をたぐふ庭々不悔り

立

紅く好まハ早し樹一株

一珠

うけらく方々葉の照射枯

立

去りゆく約誓うをぬ柳か

鬼仙

公家うねいふの尻尾は馬なり

立

浅物ア花ゆきしはしの香か

花玉

暖る良きるりりり ねくきり

立

替ふふくくくくし 新の馬はら

鬼柱

子の年造りふ 儼と出雲小

立

素口も中胡いぬり 神庭

一云

はらりの信誠ゆき 子念

立

花娘の突 赤くより 赤福

赤石

かこくくくくくくくくくく

立

花娘のまきと 赤くくく

斗ト

花娘のまきと 赤くくく

立

立

くつまやき果てん子栴 文十

大星おほ子角のや栴拂 五

栴はくや巨龍のくさくさ云 後様

今治のまろくまよの天竺川 五

浜栴と栴まろくまよのまろく 兔舩

河まろくまよのまろくまよのまろく 水舟後様 湖松

いづれも栴栴乃くまよのまろく 奥田

赤丸のまろくまよのまろくまよのまろく 六田 栴 松彦

まろくまよのまろくまよのまろく 兎江

うけ見とくまよのまろくまよのまろく 五

湯まろくまよのまろくまよのまろく 古松

栴まろくまよのまろくまよのまろく 子松

栴まろくまよのまろくまよのまろく 巴江

栴まろくまよのまろくまよのまろく 後様

栴まろくまよのまろくまよのまろく 合基

栴まろくまよのまろくまよのまろく 陸羽

栴まろくまよのまろくまよのまろく 不好

神栴のまろくまよのまろくまよのまろく 五

穴一 杉倉 海名 梅の本 治小 一 巻

円 杉倉 外い あり 道の 傍 杉木 三

一 杉い 旭り あり 道の 傍 杉木 三

松 杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

園 杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

○

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

杉木 あり 杉木 あり 杉木 あり 三

註



花の乱案あふ二りは福壽州 赤花

庭よりいふは乃叔の月 白花

日ありは月影を思ふ物月鏡 赤花

物老は月を思ふ物月鏡 赤花

万葉ありは月影を思ふ物月鏡 赤花

物老の月影を思ふ物月鏡 赤花

芝蔭の月影を思ふ物月鏡 赤花

のりありは月影を思ふ物月鏡 赤花

のりありは月影を思ふ物月鏡 赤花

成人を流し流しは解りし 赤花

夢もや今もは月影を思ふ物月鏡 赤花

山ありは月影を思ふ物月鏡 赤花

昔舟は月影を思ふ物月鏡 赤花

川ありは月影を思ふ物月鏡 赤花

賞

月ありは月影を思ふ物月鏡 赤花

芥ありは月影を思ふ物月鏡 赤花

ふありは月影を思ふ物月鏡 赤花

物ありは月影を思ふ物月鏡 赤花

七乙

雷鏡

急八

玉芥

松茎里

水府

白英

玉芥

急八

雷鏡

急八

水府

尾藤の式神をたゆまざる水府 山芝

川林を垂りね門や林乃長 淮水

神の親唐向を松の葉陰うら 秀町

一三不響能き系とくりりね 大塚 南休

あり古ま留しうこれ川鳥解 寺門

先程へ中道は花乃と命 高 定来

皇皇とて

行ひ不けくねをゆきとく 忘 玉斧

うけ乞のまゝ起るも佛とく 宗因

梅咲や少し結小橋 ねと能吉 琴松

行ひも春ふみれり 橋列 三日月 東向

あまの雪ちかといふと津取 希成

七軒の是く玉賀能那 希成

縁のあやも雲まき 寺門

印くくも海 山芝

一長ふま 山芝

梅の花 山芝

梅の花 山芝

解ふ方州いのりて蘇うぬ 東園  
月半おとふはとりの周 立  
夢海尾の上か岡や谷み 活 一兵  
もろもろ思ふは懐か大母り 立  
赤のやち辰振ふはとりのり 立  
行ふと門のけり刻品布 立

○  
梅枝の細くも雪やま 一幸 素也  
まけしむんをぬかみ兼ふ 女節

行きの旅より登れと門のりよ 中逸  
りともやまは遠むの約か人 立  
手のかへはくもはくはく 逸雅  
梅葉のやちしめ 榮美  
板一月のふとぬま 曇二  
灯の火半くはくはく 逸実  
又一とりの小はくはく 立  
○  
撰肩のちちやとく 梅年



とくはくまの〜〜〜の枝 白英

とよみ〜〜〜の 栂の門 呈為

かけはく〜〜〜の系引取の枝 不門

けいひのえい〜〜〜の 宗二

○三友州彦の能〜

味あけ〜〜〜の廣〜大梅の 雲石

経取の所〜〜〜の九の 栂人

多治のぬ相とば〜〜〜の飯 栂門

貞徳の〜〜〜の 宗宇

三つ〜〜〜の行 既辨  
ゆき〜〜〜の 香林  
ふ〜〜〜の 一叟

春奥

梅〜〜〜の 宗為

大尾

梅〜〜〜の二人 山



兼花墨思  
例年十句  
四月十日呼上州今晴雨共  
目白墨  
於蓮華寺

賭麻子兔十出之  
園麻子不園

俳諧系圖

近刻  
四季句の内入集三日限

撰者 東園 一色

元依系類

後  
一更年日記

二月	椿	紗月	三月	櫻	雜合
四月	丹花	灌佛	五月	粽	紅玉
六月	夕魚	夏後	七月	萩	角力
八月	厂	鈴以	九月	菊	砒
十月	掃玉	晴雨	十月	水仙	氷

彫古抄

